

# 健康ウオツチング

東陽病院 院長 伊藤 文憲

## 痛風について

横芝町の皆さん今日は。今回は痛風についてのお話です。ほんの少しの風に当たっても患部が痛いという痛風は以前王様や貴族のかかる病気と考えられていました。しかし、飽食の現代では多くの人々が罹患しています。痛風は血液中の尿酸の値が高値になり、関節内に炎症を起こし、排泄路である腎・尿路系に悪影響を起こします。

健康診断にて血清の尿酸値の測定が一般的に行われていますが、尿酸値が高い場合で、痛風の発作が無い時は「高尿酸血症」と呼ばれて痛風の予備軍になります。正常値が男女別々に記載してありますが、実際は男女とも7.0mg/dl未満です。血液中では7.0mg以上になると結晶化してしまい各種の臓器に悪影響を起こすようになります。先に述べたように7mgを超えても症状が

結石となります。

出なければ「痛風」とはいえません。予備軍です。

痛風は西洋ではエジプトのミイラにも認められ、アレキサンダー大王やルイ14世、ニエートンなどの有名人も痛風患者でした。しかし、日本には古い書物にも痛風に当たる記載はなく、明治22年に初めて報告され、戦後から本格的に増加しています。肉食やアルコール等の生活の影響が考えられますが、関連は明らかではありません。

痛風の発作は足の親指の関節に起こることが代表的です。関節内で過飽和になった尿酸塩が白血球に吞食され炎症を起こす物質が産生されて急性関節炎が発症します。高尿酸血症が長く続くと腎臓に沈着して障害を起こします。進行すると腎不全に至りませんが最近では早期の治療が行われてほとんど見られなくなりました。尿酸が腎臓から尿中に排泄され結晶化すると尿路

高尿酸血症の治療は血液中の尿酸を下げることで、血液の中に尿酸が増える原因には2つの機序が考えられます。尿酸はプリン体の多い食事やエチルアルコールの過剰摂取、比較的激しい運動をする人などに増加します。このように過剰に産生された尿酸による場合と出来た尿酸を腎臓から尿中に排泄する働きが悪い場合との2つに分けられます。尿酸産生過剰型と尿酸排泄低下型です。それぞれの投与する薬は違います。両者の区別は尿の成分の分析で可能です。

治療法としては痛風発作や尿路結石を繰り返す例、何らかの腎障害が見られた場合や尿酸値が9.0mg以上では尿酸コントロール薬の投与により、血清尿酸値を7.0mg以下にすることが必要です。なお、痛風発作時には抗炎症薬が必要であり、尿酸値を下げる薬は発作を長引かせることもあるので使用しないほうが良いでしょう。生活上も過飲、過食を避け、肥満の解消の為に有酸素運動などを長く続けることが大切です。

気軽に利用できる

## 日帰り人間ドック



健康はあなた自身、そして家族にとっても、貴重な財産です。  
健康管理に心がけましょう。

★検査日 月曜日・水曜日

★検査内容 身体測定・血圧・心電図・肺機能・肝機能・血液一般・血糖・尿一般・

検便・視力・眼底・胸部レントゲン撮影  
・胃内視鏡・腹部超音波

★利用料金 基本料金 42,000円

(女性のみ・子宮がん 3,150円・  
乳がん 4,200円)

※国民健康保険の方は、個人負担が男性6,300円・女性7,403円です。役場国民健康保険係へ相談して下さい。(☎82-8814)

※甲状腺・骨粗しょう症・禁煙の相談も受けします。  
※問い合わせ先

東陽病院 ☎84-1335

<http://www4ochnet.jp/~toyohp/>